

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-154	12-093	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Cognitive behavioral smoking cessation during alcohol detoxification treatment: a randomized, controlled trial. アルコール解毒治療中の CBT (認知行動療法) : ランダム化試験		
執筆者		
Mueller SE, Petitjean SA, Wiesbeck GA.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2012 Dec 1;126(3):279-85		
キーワード		
認知行動療法 (CBT)、喫煙者、アルコール、治療中		
要 旨		
目的 : アルコール依存症者において喫煙はついで回り、多様な健康リスクを生じる。それゆえ、早期に適切な禁煙介入をこの高リスク集団に対して施す必要がある。		
方法 : 喫煙中止研究の参加者に喫煙者へのアルコール解毒治療が行なわれた。103 名の患者が対象となり、CBT (認知行動療法) を受ける実験群と自律訓練法を行う対照群に無作為に割り付けられた。喫煙に対する結果は介入直後および飲酒結果が追跡される 6 ヶ月後に自己申告と一酸化炭素レベルによって計測した。		
結果 : 介入後における喫煙中断率に差は生じなかった。しかしながら、実験群では対照群と比較して日々の喫煙量/回数がより減少することが確認できた ($p=0.046$)。サブグループ解析の結果、喫煙量の減少によって最も改善効果が確認できたのは大量喫煙者 (FTND スコア 7 以上) であった。6 ヶ月後にはこれらの良好な結果は全体的に確認できた。喫煙の中断がアルコールの結果に対して危険にさらすというエビデンスは確認されなかった。		
結論 : アルコール依存の喫煙者はアルコール解毒中であっても喫煙に関する介入に興味があることが示唆された。CBT は短期の喫煙のアウトカムと健康被害の予防軽減について期待が持て、長期間の効果については望ましいものであった。これらの知見はアルコール解毒治療中の患者に対して喫煙中断介入を行なうことの重要性を示した。		